



# 文章は書き出しで9割決まる

「つかみ」は何事においても大事です。

野球で言うならば、開幕戦。

演奏会ならば、プログラムの最初の曲。

漫才のプロも、常につかみを意識しています。

文章も同じです。

つかみが大切です。

特に人に読んでもらう文章においては、「題名」と「書き出し」だけで面白いかどうかの9割がた決まると言われています。

本屋でもパンチ力のあるタイトルがずらりと並ぶのは、そのためです。

さて、クラスでも作文指導がスタートしています。

学習の基礎は「読み書き算」といいます。

読みは「音読力」。

算は「計算力」。

そして、書きは「作文力」です。

音読や計算と並び、「作文」も様々な学習を支える屋台骨だといえます。

今回は、作文力についてのお話です。

教えるのは、主に「書くスキル」の時間です。

さらに、宿題の「日記」を作文練習の場として活用しながら、作文力の向上を図っていきます。

最初に教えたのは、「タイトル」です。

プロのキャッチコピーを参考にして、読み手を引き付ける題名のつけ方を楽しく学びました。(Venture fourth 第25号)

続けて教えたのは、「書き出し」です。

通常、何も指導していない状態では、子どもたちの日記や作文は次のような書き出しが並びます。

「今日は、～～～ました。」

「ぼくは、～～～ました。」

「わたしは、～～～ました。」

4年1組も例外ではありません。

特に何も言わずに書かせた最初の日記は、ほぼ100%が上の書き出しで日記をスタートしていました。

もちろん、それが悪いわけではありません。

ただ、「書き出し」を一つの「文章技術」としてとらえるなら、きちんと練習する必要があると思っています。

たった一つしか方法を知らないのと、いくつか知っている中から選択しているのでは、大きく違いがあるからです。

良いピッチャーは、ストレートだけでなく色んな球を投げ分けます。

同じように、文章を書くのが上手い人は、色んな書き出しができます。

毎度同じ書き出しではなく、「書き分け」られる人は技術が高いといえます。

そして、色んな技を知っている方が、作文が楽しくなります。

バリエーションに富んだ書き出しができることを、今のところ一つの目標に据えています。

そこで、次のように指導をしました。

### ①書き出し集め

図書室に、ノートと筆箱を持って集合しました。

そして、次のように言いました。

ここには、プロの書き出しが山のように眠っています。  
プロの書き出しを、ノートにできるだけたくさん写してごらん下さい。

この指示で、一斉に子どもたちは動き始めました。  
自分が選んだ本の最初の一文を、ノートに目いっぱい写すわけです。

「これすごい！」

「おもしろいのが見つけた！」

なんて言いながら、どの子どもも嬉々として書き出しを写しています。  
ノートには、次のような書き出しが並びました。

- 放課後の教室は、静かでどこか寒々としていた。
- 月明かりに照らされた狭い道にどこからともなく二人の男が現れた。
- 金魚が逃げた。

さすがはプロです。

子どもたちを十分に納得させる書き出しばかりです。

加えて驚いたのは、子どもたちの勉強に取り組む「熱量」でした。

ゆったりと時間をとったのですが、終始夢中になって鉛筆を動かし続け  
ます。

終わりの時間が来ても、

「先生もう少しだけ！！」

「あとちょっとあとちょっと！」

と懇願する姿まで見られました。

プロの技と力が凝縮された文の雰囲気や、肌で感じたのかもかもしれません。

ノートに10～20ほど書き出しを集めた後、教室に戻りました。

そして言いました。

このプロの書き出しを、作文でぜひ使ってください。

多少へんてこな文章になっても全く構いません。

これが、第一回目の書き出しの指導です。

かくして、子どもたちの書き出しは少しずつ変貌を遂げ始めました。

みんなのノートから、書き出しの一文だけをいくつか紹介します。

- 天が一面、薄墨を流したように暗くなった。
- インドはカゼもカレーで治す。
- 「ねえねえあたらしいお店が出来たんだって。」
- 金子みすゞってだれ？
- たった一人をべつにして、子どもはみんな大きくなります。
- 「ここは・・・・・・・・どこ？」
- あなたが大人になったとき。
- 突然ですが、地球にはどれくらいの種類の生き物がいると思いますか？
- じん六は、腹立ちまぎれに、かなづちを床にたたきつけた。
- 丘の上の家に、ぼくとわたしが住んでいた。
- この公園に、リスはたった1ぴき。

「今日は～」 「ぼくは～」 「わたしは～」 とは全く違った書き出しが、続々と登場しました。

さらに、書き出しに引っ張られるように、文章全体の中身もグッと知的になってきています。

かくして、子どもたちの文章は変貌を遂げ始めました。

第二回の書き出し指導は、また別の号で紹介します。

**☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください**

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

